

京都学 (Studies on Kyoto)					担当教員
					講師 岸野 良治
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
人と文化	1年次 後期	講義	1.5単位	選択	

【概要】

みなさんは「京都」と聞くと何を思い浮かべますか？お寺、神社、お茶、修学旅行、舞妓さん、おつけもの、桜、紅葉、歌舞伎、御所、祇園祭など、その質問に対する回答は人によって様々でしょう。京都は、794年に桓武天皇が遷都して以来、1869（明治2）年に明治天皇・皇后が東京へ遷るまで、ほとんどの天皇の居所であり、華やかな貴族文化を咲かせました。室町時代には能・狂言や茶の湯などの新たな文化の創成しました。歴史の教科書に載る多くの事件が京都でおこり、歴史的に著名な多くの人たちが京都に住み、また京都を訪れました。今なお仏教諸宗派の本山の多くが京都にあり、文化財を数多く保存する都市でもあります。西陣織やその他のすぐれた伝統工芸技術が保存されてもいます。

本授業は、こうした豊かな歴史的・文化的背景を有する京都にまつわる様々な学術的な事象を、複数の専門家によるリレー形式の講義を通じて考察するものです。このような説明を聞くと堅苦しくて小難しい講義のような印象を持たれるかもしれませんが、決してそうではありません。要は、京都にちなんだ様々なトピックに関して、みなさんが普段の学業生活ではなかなか聞くことができない学術的な話を、その道に通じた複数の専門家から直接聞くことができる授業です。具体的には、本年度は、主として「寺院建築」「近世文学」「京都画壇」「京都学派」「民藝」の専門家に登壇してもらいます。

なお授業の形態ですが、すべて「対面」で行われます。なお、どの先生がいつ担当するのかという点については状況に応じて変更される可能性があります。

【授業の一般目標】

世界を代表する文化都市である京都にちなんだ文化・思想を、複数の学術的見地から学ぶことによって、京都が文化的にも学術的にも好環境な地であることを認識できるようになること、
有用性や損得勘定とは別の価値観（真・善・美など）の重要性を認識できるようになること、
学術の多面性に触れ、その意義や面白さを認識できるようになること、
以上の三点を目標としています。

（必ずしも京都について詳しい知識を身につけることを目的としているわけではありません。）

【準備学習(予習・復習)】

本授業は、複数の講師がそれぞれのテーマに沿って2 - 3回の授業を担当するリレー講義の形式をとります。講師によっては、予習として、授業のテーマに沿って事前に知っておくべきことを幾つか調べておくよう指示があります。また復習として、授業後に授業を通じて気づいたこと疑問に思ったこと等を簡単に記してもらうことがあります。

【学習項目・学生の到達目標】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標
1	「京都学」を学ぶにあたって	岸野	授業の取り組み方や狙い、評価の基準や留意事項を理解する。
2	近世文学 1	大関	江戸期の京都にちなんだ文学作品を通じて国文学全般について考察することができる。
3	近世文学 2	大関	江戸期の京都にちなんだ文学作品を通じて国文学全般について考察することができる。
4	近世文学 3	大関	江戸期の京都にちなんだ文学作品を通じて国文学全般について考察することができる。
5	京都画壇 1	植田	「京都画壇」を通じて絵画全般について考察することができる。
6	京都画壇 2	植田	「京都画壇」を通じて絵画全般について考察することができる。
7	京都学派の哲学 1	根無	「京都学派」を通じて哲学全般について考察することができる。
8	京都学派の哲学 2	根無	「京都学派」を通じて哲学全般について考察することができる。
9	京都学派の哲学 3	根無	「京都学派」を通じて哲学全般について考察することができる。
10	民藝 1	高木	京都で誕生した「民藝」を通じて美や伝統について考察することができる。
11	民藝 2	高木	京都で誕生した「民藝」を通じて美や伝統について考察することができる。
12	寺院建築 1	富島	寺院建築を通じて京都について考察することができる。

13	寺院建築2	富島	寺院建築を通じて京都について考察することができる。
14	寺院建築3	富島	寺院建築を通じて京都について考察することができる。
15	総括・まとめ		

(書名)

(著者・編者)

(発行所)

教科書 特定のものはありません。

参考書 随時プリント等にて配布(ないしmanaba 上にアップロード)します。また、書籍等も紹介します。

【成績評価方法・基準】

授業における平常点(10%)と学期末の課題レポート(90%)により判定します(定期試験は行いません)。レポートは、5名の先生が提示した課題の中から幾つかを選んで回答するというものです(一つ1000字程度。manaba での提出。欠席した授業の課題レポートを提出することは不可。提出したとしても採点対象外)。

【評価のフィードバック】

講評は、必要に応じて、manaba にて公開します。

【非常勤講師】

大関綾(大谷大学)、高木崇雄(日本民藝協会常任理事)、富島義行(京都大学)、根無一行(京都大学)、植田彩芳子(京都文化博物館)

【オフィスアワーなど担当教員に対する質問等の方法】

非常勤講師の先生方にはみなさんが直接連絡をとることが出来ないので、岸野を通じてメール等による質疑応答となります。